

災害に備えて 防災力を高めよう

令和元年度 市防災訓練



火災防御訓練では消防署や市消防団第17から23分団が校庭に展開し、合図とともに一斉放水

豪雨や地震などの災害への備えと、地域住民の防災意識を高めることを目的とした市防災訓練は9月1日、寄木小とその周辺を会場に行われました。

同校の児童や地域住民、自衛隊など15機関約600人が参加。会場では、さまざまな訓練が行われました。

午前9時20分からは、同校からの出火を想定した火災防御訓練を開始しました。赤い煙が立ち込めると、全校児童81人が誘導に従って一斉に校庭へ避難。消防車両11台が出勤し、来場者が見守る中、消火活動にあたりました。

火災防御訓練終了後、児童たちは初期消火や煙体験、119番通報、応急食料の炊き出しなどの訓練を学年ごとに体験。地域住民とともに、実践的な訓練を通して、防災への理解を深めました。

関係機関や地域住民の協力に感謝

松尾地区振興協議会長 中軽米 幸雄 さん



関係機関の協力と多くの地域住民の参加により、大規模災害訓練が行われたことに感謝いたします。自分たちの地域は自分たちで守ることを肝に命じ、いつ起こるか分からない災害に備えていきたいです。

体験してみて分かった119番通報の難しさ

寄木小6年 千葉 美空 さん



119番通報訓練では、練習だと思っていたのにすごく緊張しました。もしも本番だったらどうしようかなとも思いました。難しいかもしれないけれど落ち着いて伝えることができるように、防災訓練で学んだことを生かしていきたいです。

紙芝居で防災を学ぶ



防災訓練終了後、各学年の教室では、先生が防災をテーマとした紙芝居を児童へ読み聞かせる授業が行われました。

海や山、川などの自然の恵みとともに、大雨や地震により、土砂崩れや建物の崩壊などの災害が起こることを説明しました。「災害後にはどんなことが危険となりますか」と質問すると、児童たちは手を挙げて積極的に発言しながら、自分の命を守る行動について学びました。



- 1_ 手軽に設置することができる防水板を初めて使用し、効果を確認しました
- 2_ 搬送者の手当てをする市婦人消防協力隊員
- 3_ 消防署員の指導のもと訓練用の人形を使った心臓マッサージに児童たちが挑戦
- 4_ 市消防団員たちが手際よく土のうの堤防を設置した水防訓練
- 5_ 災害時の給水対応を説明する市職員
- 6_ 災害用食料やラジオなどの防災物品の展示品を間近に見て確かめる地域住民

市防災対策専門員に聞く

普段から災害へ備えることが大切です

昨年の北海道胆振東部の地震災害、最近発生した関東地方の台風災害など、国内で大災害が起きています。本市も例外ではなく、大雨による洪水・土砂災害や岩手山の火山災害がいつ起きてもおかしくはありません。

市の防災対策には限界がありますので、自分の命は自分で、地域は地域で守ること

が求められます。普段からの備えとして、

- ① 非常持出品や備蓄品を準備しておく
- ② 防災マップで危険箇所を把握しておく
- ③ 普段からテレビやラジオで情報収集する
- ④ 避難情報が発令されたら早めに避難する

①から④のことを心掛け、災害からの被害を最小限に抑えましょう。



市防災対策専門員 瀬川 正雄 さん